

2011年2月1日
株式会社日立製作所
富士重工業株式会社

SUBARU80/2.0 風力発電システム 11 基が 御前崎風力発電所で本格稼働開始

株式会社日立製作所(執行役社長:中西宏明/以下、日立)と富士重工業株式会社(代表取締役社長:森郁夫/以下、富士重工業)は、このたび、中部電力株式会社が建設する風力発電施設「御前崎風力発電所」の2期工事向けに、日立と富士重工業が共同で開発した大型風力発電システム「SUBARU80/2.0 風力発電システム(以下、SUBARU80/2.0)」を8基納入し、2011年1月28日から本格稼働を開始しました。これにより、昨年2月から稼働している1期工事分3基とあわせ合計11基が本格稼働を開始したことになります。

御前崎風力発電所は、静岡県御前崎市の太平洋に面した海岸線に浜岡原子力発電所の東側および西側の約10kmに渡ってSUBARU80/2.0を11基配置した風力発電所です。SUBARU80/2.0は、直径80mのローターをタワーの風下に配置したダウンウィンド方式の風車で、定格出力は、1基あたり2,000kWです。

SUBARU80/2.0の特長であるダウンウィンド方式は、その構造的な特長から台風などによる突風に対して主要構造部分への負担が軽減され、より安全で強固なシステムとなっており、海岸線への設置において強みを発揮します。また、山岳地域においても、吹上げ風を効率よく受けることができる等、さまざまな条件下でその特長を生かすことができます。なお、2,000kW級の風力発電システムでダウンウィンド方式を商用化したのは、SUBARU80/2.0が世界で初めてです。SUBARU80/2.0は、日立と富士重工業が共同で開発し、日立が営業、発電機・パワーコンディショナーなどの製造、据付、富士重工業が風車本体のナセル・ブレードおよびタワーなどの製造を担当しています。

日立および富士重工業は、日本の複雑な地形や気候に適したSUBARU80/2.0の特長を生かして国内での普及を進めると同時に技術的な蓄積を図り、風力発電システムの技術開発をさらに推進していきます。

■御前崎風力発電所(2期工事分の一部)の外観



以上

このニュースリリース記載の情報(製品価格、製品仕様、サービスの内容、発売日、お問い合わせ先、URL 等)は、発表日現在の情報です。予告なしに変更され、検索日と情報が異なる可能性もありますので、あらかじめご了承ください。
